

1. 縫製工場数増加

工業・手工芸省の発表によると、カンボジアの主力産業である縫製業の6月末現在の工場数は、13 年末から8%増加して1,200 カ所を超えた。縫製工場で働く被雇用者数も、13 年末の67 万7,600 人から73 万3,300 人に増加した。同省では、工場数、被雇用者数の順調な伸びを歓迎。一方、カンボジア縫製製造業協会(GMAC)は、昨年来の政治情勢や、13 年末~14 年初めのストライキなどの影響で投資家が慎重になっており、工場数、被雇用者数の伸び率が頭打ちになっていると分析している。

2. 300人を超える労働者がデモ行進

6/20、プノンペン の Russey Keo 地区にある縫製工場では、300 人以上の労働者が参加して労務省までのデモ行進を行った。デモには Wincam Corporation で働く 800 人を代表して、300 人が参加した。ストライキを始めたのは 10 日以上前で、労働者側は全部で 8 項目を要求した。Confederation of Union for Cambodia Corporation の代表 Ou Sokheng 氏は、「その中には 1 時間 2000 リエルの残業手当と、妊娠中の女性労働者の 1 日休暇なども含まれています。彼らは、目標を達成するための手助けをしてほしいと、私たちの組織に求めてきました。そして、今日彼らは労務省までデモ行進を行うと決めました」と話す。Wincam Corporation 経営側のメンバーのひとり、「工場の関係者達はこの問題の解決にあたっている」と話している。

似たようなデモはプノンペン Por Sen Chey 地区にある Harta Packaging 工場でも勃発しており、こちらではおよそ 200 人の労働者が 1 月からずっとストライキを行っており、タイヤを燃やしたりしているという。

3. 労働者達がシニアリティ手当を勝ち取る

6/30、プノンペン Por Sen Chey 地区にある Harta Packaging Industries では、半年にも及んだ膠着状態の末、ついに経営側がおおよそ 150 人の前労働者にシニアリティ手当を支払うことを決定した。労働者と工場の間でなされた同意書は、労務省に届けられ、これにより Harta Packaging Industries は、全部で 145 人の前労働者にそれぞれ 500 ドルから 4000 ドルの手当を支払うこととなった。今回の結果は、200 人以上の前労働者と組合員が、先週の土曜日からずっと工場を行き来する荷物の運搬をブロックし、邪魔し続けたことからもたらされたものだ。Harta 前生産マネージャーと、工場の Workers Friendship Union 代表者は、「労働者と会社の間にあった諍いは、会社側が仲裁審議会の決定に従ったおかげでもうなくなりました」と話した。

5 月 31 日、2012 年にオーナーが変わったこの工場に対して、審議会は「206 人の前労働者に対してシニアリティ手当を支払わなくてはならない」、との命令を出した。工場と組合が話し合いを行って、このうちシニアリティ手当を受ける権利があるのは 145 人だけ、との結論で応じた。Harta のマレーシア人の前オーナーは、工場を現在のオーナーに売り渡し、およそ 200 人の労働者を解雇していた。そのときは、およそ 285 人もの労働者がシニアリティ手当の支払を要求していた。しかしこのうちの多くは後に解雇され、また、手当を受ける資格がないと言い渡された労働者達は、すでにストライキ活動をストップさせている。

この諍いが終わったのと同時に、同じ地域で別の問題が起こった。Hong Kong Ju Feng 工場の労働者達が工業団地のゲートを朝の 8 時半から 10 時までブロックした。理由は、今月上旬に工場オーナーが町を逃げたことを受け、労働者達はカナディア工業団地のオーナーにボーナスの支払を要求したのだ。「もし交渉が失敗すれば、またストライキを起こしてゲートも封鎖させます」、と Rong さんは話す。

4. 在カンボジア・ベトナム大使館前で、市民200人以上抗議行動

7/08、在カンボジア・ベトナム大使館は、カンボジア市民グループがベトナム大使館の前に集結して、大使館の行動を妨害する行動をとったことについて、抗議するコメントを発表した。同大使館によれば、カンボジアの首都プノンペンのモニボン通りにあるベトナム大使館前に200人以上のカンボジア市民がプラカードを持って集結し、「ベトナムはカンボジアの領土を盗んだ」などと非難するスローガンを掲げた。しかし、カンボジア警察当局が迅速に対応したため、市民グループは同日午前中にすぐに解散した。

同大使館のチャン・バン・トン政治参事官は、「彼らの主張はまったく根拠がない。抗議自体が当局の許可を得ていない違法なものだ。そのため、ベトナム大使館は彼らの要求を検討する必要すらない。ベトナム南部は国際法に基づくベトナムの領土であり、国連も国際組織も東南アジア諸国連合(ASEAN)を含めた世界中の国々からも認められている」と説明。カンボジア当局がベトナム大使館と職員の安全確保のため、警備を強化したことも付け加えた。

5. Ocean 社、7 月 9 日までは操業停止を決定

数ヶ月に渡って閉鎖している縫製工場が、少なくとも 7 月 9 日までは操業を開始しないということがわかった。プノンペン の Dangkor 地区にある Ocean 縫製工場は、5 月 24 日から今日まで操業を停止させ、労働者には賃金として 1 日につき 15 ドルのみを支払うという発表をしていた。それに対して労働者側は、賃金は全額支払うべきだと主張し続けていた。Collective Union of Movement of Workers (CUMW) の代表 Pav Sina 氏は、「今回の問題はすでに仲裁審議会の手に渡っています。労働者はいまでも、100% の支払いを要求しています」と話す。Ocean 工場経営チームのひとり Salayddin Ahmed さんは、「労働者達と交渉をしようと試みてきましたが、彼らは全額支払以外の提案は一切受け入れようとしません」と話す。Ocean 工場は、唯一の取引先である GAP がストライキの頻発を危惧してオーダーを減らしたため、生産をストップさせるしかなかったようだ。

6. デモ隊衝突、数十人負傷＝カンボジア

7/15、プノンペン中心部にある「民主の広場」付近で、同広場の開放を要求する最大野党・救国党の支持者ら数百人のデモ隊と治安要員が衝突し、地元当局によると、数十人が負傷した。民主の広場では 1 月、救国党支持者ら数百人の反政府デモ隊に対し、治安部隊が無差別に暴行を加えて強制排除。当局はその後、鉄条網を設置するなどして広場での集会を禁止している。15 日の衝突に絡み、昨年 7 月の総選挙に出馬し下院議員に当選した救国党の 3 人が警察に身柄を拘束された。救国党は総選挙で大規模な不正があったとして、議会のボイコットを続けている。

7. 工場内で 50 人が失神

6/30、Svay Rieng 州 Bavet 市にある Ging Ko 2 縫製工場で働くおよそ 50 人の労働者達が、失神を起こしていたことが組合代表者の話により明らかになった。Collective Union of Movement of Workers (CUMW) の代表 Pav Sina さんは、「今回の事故が起こったのは Tay Seng 経済特区にある工場です。朝のうちから労働者達が相次いで失神し、ランチタイムが終わるころにはさらに 40 人が倒れていました。倒れた人たちの気分もいまは回復し、クリニックは出れたようです。しかし未だに、一体何が原因だったのかわかっていません。私は、この気温の暑さ、工場の換気の悪さ、労働者たちの栄養不足などが原因だったのではと考えています。」と彼は話し、また「倒れて自宅に帰された労働者たちも、今日からまた仕事に戻ります」と付け加えた。

今月上旬、労務省は『1 月 1 日以降、合計 600 人以上の労働者が倒れた』とレポートしており、去年が 1 年間の総計で 823 人だったことを考えると、失神者は増加の傾向にある。

8. 7 歳の少女がメイドとして労働

6/23、警察は、7 歳の少女を奴隷のように扱い暴力をふるっていたとして、プノンペンのカップル 2 人を逮捕した。Meanchey 地区 Boeung Tompun 部に暮らす Veng Vyna 被告 33 歳と Chiem Srey Doung 被告 30 歳は、人身売買と暴行罪の罪を問われ、裁判所に送られた。この 2 人のカップルは、反人身売買警察が少女を解放した 2 日後に逮捕された。プノンペン警察の Prum Santhor 氏は、「少女は 2 歳のときからこの家に囚われています。被告人たちは少女に虐待を加えており、背中や身体中に傷跡を残しています。今回の事件が発覚したのは、少女の足にある傷をおかしく思った隣人らが警察に通報したためです。それまで、少女を外で見るとは滅多になかったようです」と話す。少女の話によると、掃除のできが不完全だったときなどに、被告人たちにワイヤーで殴られたりしていたようだ。通報を受けた警察は少女の身体中に虐待の跡があることを発見し、その家から少女を解放した。

一体彼女がどこから来てなぜここにいいのか、今の段階では不明な点が多いという。しかし Vyna 被告と Srey Doung 被告を問い詰めたところ、少女の母親は少女が 2 歳のときにアルコール依存の父親に任せて出て行ってしまったのだという。そして父親の隣人が、少女を別の親戚に預けてはどうかと提案した。この 5 年間、少女はカップルと生活を共にし、学校に行くことは一切許されず、家事のみを行ってきたという。少女はいま、NGO のもとで保護にされていると警察はポスト紙に話したが、Santhor 氏は、「どの団体が引き取っているかはわからない」と話している。Cambodian Children's Fund のブランチャマネージャー Ngoy Heng 氏は、「子供が半永久的に奴隷化されている事実は、カンボジアではよく見られる出来事です。子供のことを全く考えず、学校にも生かせない 2 人の人間によって、彼女の人生は搾取されてしまいました」と話した。

9. 5 万人以上のカンボジア人労働者が、軍事政権のタイを後に

移住し労働者として働いていた10万人以上(違法労働者を含む)のカンボジア人が、次第にタイ国内に権力を広げていたタイ軍事政権により、急遽帰国することを余儀なくされている。タイの軍事政府は、国中からすべての違法労働者を追い出すキャンペーンを行っている。既に帰国したカンボジア人達は、軍人は違法労働者に対して銃を向け、時に発砲したり暴力をふるったりしてくると主張している。また、帰国するカンボジア人のうち5万2千が横断するポイペト国境では、36時間も待つて並ぶ事態になっている。

10. タイで働くには最低で2か月待ちか

タイに戻ろうとするカンボジア人労働者達は、移住労働をするのに必要な手続きをすべて済ませるために、合計およそ2か月間も待つ必要がでてくる見込みだ。外務省とリクルートエージェントがサインした同意書によると、タイで働きたいカンボジア人は、リクルートエージェントとの正式な手続きのために9つのステップを踏むことが求められるようになる。しかし金額は一律で49ドルとなり、以前、支払わなくてはならなかった面倒なコミッション料などは必要なくなった。しかし前より支払額が減ったものの、手続きを終えるまでには営業日で53日間が必要となった。

タイで軍事政権が全権を掌握して以来、危害を加えられることを恐れた22万人以上のカンボジア人が、先月タイからカンボジアへ帰国している。新しいルールのもとでは、まずタイで働きたいカンボジア人は、決められたリクルートエージェントにコンタクトを取って、そこから認可のあるタイの雇用先を紹介してもらわなくてはならない。その後、エージェントはID取得のため労働者を労務省へ連れて行くが、取得までには2日必要となる。次に内務省に行き4ドルを支払って、パスポートを貰わないといけないが、それにさらに20日間を要するようになる。その他にも多くの手続きが求められているのだが、一つ一つが完了までに3〜15日間を要するものばかりだ。しかしタイでのワークパミットとタイ行きのビザを取得するには、すべての完了を待つしかない。

リクルートエージェント Top Manpower 社のディレクター An Bun Hak 氏は、「いくら日数がかかろうとも、政府は必ずリクルートエージェントを通すことを勧めています。手続きを担うのはわたし達ですが、私たちもまた、政府の承認を一つ一つ得ながらやっていかないとはいけません。」と話す。労務省のスポークスマン Heng Sour 氏からは、まだコメントはない。また、タイで移住労働を専門に調査している Andy Hall 氏は、「コストは一見低く見えますが、実際は手続きの時間を減らすための賄賂が横行するようになるでしょう。そもそも正式な許可を得るまでに53日間も要するなんて、馬鹿げています。こんな日数がかかるというのは、職員が賄賂を貰いたいからにはかかります」と話す。

11. JICA、プノンペン送電網拡張など円借款契約

7/10、国際協力機構(JICA)は首都プノンペンで、カンボジア政府との間で計137億8,500万円を限度とする円借款貸付契約3件、8億5,100万円の贈与契約1件に調印した。円借款3件は、(1)プノンペン首都圏送配電網拡張整備計画、最大64億8,000万円(2)国道5号線改修計画(ブラックダムスレアマム間)第1期、16億9,900万円(3)プノンペン南西部かんがい排水施設改修・改良計画、56億600万円――。供与条件は年利0.01%、償還期間は40年(10年の据置期間含む)、調達条件は一般アンタイドとなる。

12. カンボジアで前国王納骨式、首都の沿道に2万人

7/11、2012年10月に89歳で死去したカンボジアの故シアヌーク前国王の納骨式典が、首都プノンペンで営まれた。前国王は昨年2月に火葬され、遺骨は王宮内に保管されていた。遺骨を納めた骨つぼは同日朝、特別車で王宮近くを巡った後、王宮敷地内の銀寺に移された。テレビ各局が生中継し沿道に市民ら約2万人が集まるなど、前国王が今なお国民に深く敬愛されていることを示した。

13. フンセン首相がバングラデシュを公式訪問

公式訪問として、フンセン首相が、6/17から3日間バングラデシュに滞在した。この訪問の期間中に両国の首相が何箇所もある数々の取り決めを行った。フンセン首相とともにバングラデシュへ赴いたのは、副首相と外務省 Hor Namhong 氏、農業省 Ouk Rabun 氏と文化省 Phoeurng Sackona 氏、Council for the Development of Cambodia の事務局長 Sok Chenda Sophea 氏、その他政府関係者が数人である。

Thamarong 氏は、「ご存知のように、バングラデシュは農業生産の分野では秀でた国であり、優れた農業技術を持っています。国自体はカンボジアといっしょで小さいのですが、人口の多さは世界で8番目となっています」と話す。カンボジア野党である救国党のスポークスマン Yem Ponharith 氏は、「バングラデシュも我々と同じ途上国ですので、ともに農業分野で協力することはとても良いことであります。カンボジアの現政府は国民党による国会議会がすべてを決定

していますが、私たちは国の利益のため外国との関係強化に努めます」と話した。

一行は、バングラデシュの博物館や寺院、また、貿易に関連する施設なども期間中に訪れたという。

14. 最近の外資の進出状況

・ワタミ、イオンモールに出店

居酒屋大手のワタミが、「イオンモールプノンペン」の地上階テラスゾーンに「和民」の1号店を開店した。資本金は 50 万米ドル(約 5,000 万円)で、1号店の店舗面積は約 280 平方メートル、客席数は 142 席、メニューは刺身やすし、天ぷらなどの日本食が中心で、客単価は 1,200 円前後を想定している。

・マレーシアのベルジャヤ、外食チェーンを展開

7/09、マレーシアの大手複合企業ベルジャヤ・グループの外食事業会社ベルジャヤ・フード(Bフード)は、カンボジアでファストフードチェーン「ケニー・ロジャーズ・ロースターズ」を展開すると発表した。資本金は 20 億リエル(約 5,000 万円)。

・マレーシアのメイバンク、今年中に5支店開設

マレーシアの最大手銀行マラヤン・バンキング(メイバンク)は今年中に、カンボジアに5支店を増設する方針を発表。メイバンクはこのほど、プノンペンに近い南部カンダル州タクマウに 17 店目となる支店を開設した。

・ベルジャヤ・フード、カンボジアに子会社設立

7/09、飲食チェーンのベルジャヤ・フードは、全額出資子会社のベルジャヤ・フード・インターナショナル(BFI)がカンボジアに新子会社「ベルジャヤ・ロースターズ」を設立したと発表した。

・現地日系ロコモ、カンボジア全土に冷凍・冷蔵物流網構築

物流・卸業を手掛ける現地の日系ロコモ(LOCOMO)グループは、カンボジア全土に冷凍・冷蔵物流網を構築する取り組みを進めている。

・鴻池運輸、南部回廊で定温輸送開始

鴻池運輸は、ホーチミン～プノンペン～タイ・バンコクを結ぶ南部経済回廊で、冷凍・冷蔵商品の定期トラック混載便を8月1日に開始する。プノンペンでは大型ショッピングモール「イオンモールプノンペン」が開業するなど、温度を最適に管理する定温物流の需要が高まっており、他社に先駆けて南部経済回廊で事業を行う。サービス開始に伴い、プノンペンに現地法人を開設する。

・タイ病院最大手B G H、年内にプノンペンで開業

タイの私立病院最大手バンコク・ドゥシット・メディカル・サービシーズ(BGH)は今年、プノンペンで、「ロイヤル・ホスピタル・インターナショナル」ブランドの病院を開業する。

・住商、プノンペンに住宅向け亜鉛めっき鋼板の新工場建設

7/16、住友商事は、カンボジアの首都プノンペンに持つ合弁会社イースタン・スチール・インダストリー(ESIC)で、住宅向け亜鉛めっき鋼板の新工場の開所式を行った。旧工場の土地賃貸契約が満了したのに伴って移転。新設備を導入し、生産能力を高めた。

以上